

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-2
自然とのふれあいの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 しまね暮らし推進課長 新田 誠 電話番号 0852-22-6179

事務事業の名称	県立しまね海洋館の管理運営		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	日本海を中心とした水生生物の間近で見ることのできる場を創出し、質の高い自然学習の機会や、遊空間を広く県民等に提供する。	
事業概要	指定管理者である公益財団法人しまね海洋館により水生生物等の展示、調査研究、学習機会の整備、意識啓発などの管理運営		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 県立しまね海洋館の入館者数	目標値		36.9	36.9	36.9	36.9	万人以上
		取組目標値						
	式・定義 実数（公益財団法人しまね海洋館からの報告値）	実績値	37.4	35.8				
		達成率	-	97.1	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	189,636	308,322
うち一般財源 (千円)	189,636	276,447

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成27年度は3年ぶりに入館者数が増加に転じたが、平成28年度は暦や天候の影響もあり、約358千人（対前年比95.7%、16,061人の減）となった。
 ・アクアスの魅力アップのために横断的に職員を募集して「アクアス盛り上げよう委員会（AMI）」を組織し、集客力の向上、魅力あるより豊かな水族館事業を実現するため、飼育の日イベント「ペンギン子飼育体験」「サメがぶりんちよ」「イルカプールお掃除体験」、6月集客対策事業「なみちゃんをさがせ」、秋期集客対策事業「おいしー・たのしー・水フェスティバル in アクアス」等を実施。
 ・「アカムツ」の展示を開始。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○展示施設のリニューアルや各種イベントの開催など入館者増加に向けた取組を実施し、ナンバー調査では42都道府県が確認されるなど、全国からの集客がはかられた。
 ○学習機会の整備の取り組みとして、各種教育活動の受け入れを行い、対前年で16件、951名の増と多くの学習機会の提供が行えた。
 ・学校教育課程の受け入れ 45件、2,453名
 ・出張講話 46件、1,846名など

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・年間入館者数の減少
 - ・飼育動物の健康管理
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・他地域での大型イベントの開催
 - ・魅力の低下（他の水族館との差別化、パフォーマンス等の恒常化）
 - ・医療機器の老朽化により飼育動物の健康診断が迅速に行えていない
- ③原因を解消するための「課題」
- ・魅力あるイベント等の企画・実施
 - ・効果的なPR活動の実施
 - ・新しいパフォーマンス等の実施
 - ・新たな観光客層の取り込み
 - ・計画的な施設・設備・備品の修繕、更新
 - ・医療機器の更新

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・中国5県から瀬戸内海沿岸へのPR活動の展開、近畿エリアでの誘致活動の実施
 ・地方創生拠点整備交付金を活用したシロイルカプール等の改修による魅力向上に併せ、館内の多言語対応等のインバウンド対策を行い、外国人観光客の取り込みを図る
 ・アシカ・アザラシプールでパフォーマンスを観るだけでなく、アシカ・アザラシに触るといった五感を刺激する展示を行い、魅力向上を図る
 ・各種イベントを開催し、観るだけでなく体験をしてもらうことで、新たな魅力を感じてもらい、リピーターの確保を図る
 ・ペンギン等飼育動物の繁殖に取り組む
 ・施設の長寿命化計画に沿った計画的な施設の修繕・改修
 ・備品や医療機器の計画的更新